専 門 分 野　（　鍼基礎実技　）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2020 年度シラバス

授業概要

学　　科	本　　科	学　　年	１　年	学　　期	通　　年
単 位 数	３	必要時間数	９０	実施時間数	９４
担当教員	上田　恵介				
授業形態	実　　習	教　　室	第１実技室		
授業目的	本授業は、基本的な刺鍼の手順、安全な鍼操作を理解、習得することが目的である。また、鍼灸臨床におけるステンレス鍼と銀鍼の使用方法を学び習得することで基礎を構築する				
教 科 書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第 2 版、医道の日本社、1992 年				

具体的な到達目標

目標１	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることが出来る
目標２	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること
目標３	安全に刺鍼することができるように一連の手順を正確にできること
目標４	刺鍼に関わる動作（揉撚法・押手・切皮・刺入・抜鍼）が適切に行えること
目標５	指定された角度・深度に刺鍼することができること

評価と試験

	前　期			後　期		
試験成績	55%（試験合格を以って 55%を加算する）			55%（試験合格を以って 55%を加算する）		
平常点	35%	算出方法	「その他の事項」に記載	35%	算出方法	「その他の事項」に記載
出席点	10%	算出方法	「その他の事項」に記載	10%	算出方法	「その他の事項」に記載
その他		算出方法			算出方法	
試験日	通学再開後に設定			通学再開後に設定		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有	☑	無	□
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院にて 2 年、他治療院 2 年間、往診専門で自宅開業 3 年、本校附属治療所で 5 年間の臨床経験あり。			
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に刺鍼するための基礎実技を行う。			

授業の内容

回数	内容	備考
1	オリエンテーション［シラバスの確認・道具の確認・道具の準備・手洗いについて］	
2	両手挿管、片手挿管の方法、刺鍼練習台を用いて片手挿管の練習	
3	刺鍼の手順［揉撚法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼］	
4	反復練習（刺鍼の手順［揉撚法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼］）	
5	直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について	

6	反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について）
7	直刺での刺鍼、旋撚刺法
8	反復練習（直刺での刺鍼、旋撚刺法）
9	直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法
10	反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法）
11	人体への刺鍼手順、消毒手順、十七手技［副刺激術、置鍼術、示指打法、刺鍼転向法］
12	自身の体への刺鍼［下腿］、反復練習［前回授業内容］
13	自身の体への刺鍼［下腿］、反復練習［前回授業内容］
14	自身の体への刺鍼［下腿］、斜刺での刺鍼
15	自身の体への刺鍼［下腿］、横刺での刺鍼
16	片手挿管、刺鍼の手順、消毒手順の確認
17	自身の身体への刺鍼［下腿］、反復練習［斜刺、横刺］
18	試験
19	試験
20	試験結果を踏まえての基礎実技、十七手技［単刺・雀啄術］
21	他者の体への刺鍼［下腿］、十七手技［第 20 回の復習］
22	他者の体への刺鍼［下腿］、十七手技［間歇術］
23	他者の体への刺鍼［腰部］、十七手技［屋漏術］
24	他者の体への刺鍼［腰部］、十七手技［振せん術］
25	他者の体への刺鍼［上・中背部］、十七手技［旋撚術］
26	他者の体への刺鍼［上・中背部］、十七手技［回旋術］
27	他者の体への刺鍼［上肢］、十七手技［随鍼術］
28	他者の体への刺鍼［上肢］、十七手技［内調術］
29	他者の体への刺鍼［腹部］、十七手技［細指術］
30	他者の体への刺鍼［頸部］、十七手技［管散術］
31	他者の体への刺鍼［頸部］、十七手技［鍼尖転移法］
32	他者の体への刺鍼［背部］
33	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
34	鍼と灸を合わせての施術［伏臥位：下肢］
35	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位］
36	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位］
37	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位］
38	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位・伏臥位］
39	灸と鍼を合わせての施術［仰臥位・伏臥位］
40	試験

41	試験
42	基礎練習の復習
43	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位・伏臥位］
44	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位・伏臥位］
45	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位・伏臥位］
46	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位・伏臥位］
47	鍼と灸を合わせての施術［仰臥位・伏臥位］

その他の事項

【共　　通】

＜試験成績＞　55%（試験合格を以って 55%を加算する）

＜出 席 点＞　10%（1 回欠席につき 2 点減点）

＜平 常 点＞　35%

【動画授業の場合】

＜出席条件＞：動画授業をすべて視聴した場合、出席とみなす

＜評　　価＞：授業動画の内容は通学時の提出物・実技試験に反映する

【通学授業の場合】

［提出物 30%］提出率：100～90%（30 点）89～80%（20 点）79～70%（10 点）69～60%（5 点）59%以下（0 点）

［その他 5 %］以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。

〇実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

〇身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

〇授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

・鍼の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。　積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、先ずは 1 年間毎日練習をしてください。

・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

専 門 分 野　　（　灸基礎実技　）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2020 年度シラバス

授業概要

学　　科	本　　科	学　　年	１　年	学　　期	通　　年
単 位 数	３	必要時間数	９０	実施時間数	９４
担当教員	前田　朱美				
授業形態	実　　習	教　　室	第１実技室		
授業目的	臨床において、広く行われている灸法である知熱灸と透熱灸を、施術において用いることができるようにすることが本授業の目的である。知熱灸と透熱灸という灸法の手順を理解し、灸の基礎的な操作を学習する。				
教　科　書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第 2 版、医道の日本社、1992 年				

具体的な到達目標

目標１	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることが出来る。
目標２	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること。
目標３	安全に施灸することができるよう施灸の手順が正確にできること。
目標４	散艾から指定された大きさの艾炷を作成することができること。
目標５	作成した艾炷に安全に着火することができ、線香を安全に扱えること。

評価と試験

	前　期			後　期		
試験成績	55%（試験合格を以って 55%を加算する）			55%（試験合格を以って 55%を加算する）		
平常点	35%	算出方法	「その他」に記載	35%	算出方法	「その他」に記載
出席点	10%	算出方法	「その他」に記載	10%	算出方法	「その他」に記載
その他		算出方法			算出方法	
試験日	通学再開後に設定する			通学再開後に設定する		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有	☑	無	□
教員の実務経験	はり師、きゅう師免許を有する。往診にて３年、教員養成科附属治療所にて２年、本校付属治療所にて５年の実務経験あり。現在は鍼灸院に勤務している。			
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施灸するための基礎実技を行う。			

授業の内容

回数	内容	備考
1	オリエンテーション［シラバスの確認・モグサの確認・道具の準備・身だしなみ］	
2	お灸の概要、施灸の練習方法、艾炷を捻る指の動きの練習	
3	反復練習	
4	米粒大艾炷の作成［フェルト］・実技室の使い方	
5	米粒大艾炷の作成［板］	

6	線香の扱い方、艾炷への着火、米粒大艾炷の作成［板］
7	反復練習
8	灸療リングの使い方、米粒大艾炷の作成［紙］
9	反復練習
10	米粒大艾炷の作成［竹］
11	反復練習・もぐさ作り
12	人体への施灸手順、知熱灸の方法［板の上での練習］
13	自身の体への施灸［失眠］
14	自身の体への施灸［失眠・湧泉］
15	自身の体への施灸［下腿］
16	他者の体への施灸［失眠］、ベッド操作、タオルの扱い、声掛け
17	他者の体への施灸［失眠・湧泉］
18	他者の体への施灸［下腿］
19	艾炷を捻る指の動き、艾炷の大きさ、着火など施灸動作一連の流れの確認
20	試験
21	試験
22	半米粒大の艾炷作成［板］
23	透熱灸の方法［板の上での練習］、自身の体への施灸［失眠］
24	自身の体への施灸［失眠・湧泉］
25	他者の体への施灸［失眠］
26	他者の体への施灸［失眠・湧泉］
27	隔物灸
28	仰臥位と伏臥位の施灸、米粒大・半米粒大、知熱灸・透熱灸の使い分け
29	他者の体への施灸［腰部］
30	他者の体への施灸［背部］
31	他者の体への施灸［上肢］
32	他者の体への施灸［腹部］
33	箱灸
34	他者の体への施灸［腰背部］
35	他者の体への施灸［腹部］
36	灸と鍼の施術［仰臥位］
37	灸と鍼の施術［仰臥位］
38	灸と鍼の施術［仰臥位・伏臥位］
39	灸と鍼の施術［仰臥位・伏臥位］
40	灸と鍼の施術［仰臥位・伏臥位］

41	基礎練習の復習
42	棒灸・台座灸
43	灸と鍼の施術［仰臥位・伏臥位］
44	試験
45	試験
46	灸と鍼の施術［仰臥位・伏臥位］
47	灸と鍼の施術［仰臥位・伏臥位］

その他の事項

【共　　通】

＜試験成績＞　55%（試験合格を以って 55%を加算する）

＜出 席 点＞　10%（1 回欠席につき 2 点減点）

＜平 常 点＞　35%

【動画授業の場合】

＜出席条件＞：動画授業をすべて視聴した場合、出席とみなす

＜評　　価＞：授業動画の内容は通学時の提出物・実技試験に反映する

【通学授業の場合】

［提出物 30%］提出率：100～90%（30 点）89～80%（20 点）79～70%（10 点）69～60%（5 点）59%以下（0 点）

［その他 5 %］以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。

〇実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

〇身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

〇授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

・鍼の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。　積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、先ずは 1 年間毎日練習をしてください。

・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

専門分野　　（　あん摩実技Ⅰ　）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2020 年度シラバス

授業概要

学　　科	本　　科	学　　年	１　年	学　　期	通　　年
単 位 数	２	必要時間数	６０	実施時間数	６４
担当教員	松尾　卓				
授業形態	実　　習	教　　室	第３実技室		

授業目的

「あん摩」はその適応の広さ、汎用性の高さから、数あるあん摩マッサージ指圧等の施術の中でも臨床現場において用いられることが多い施術法である。各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技（軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手）の組み合わせやその応用から成り立っており、基本手技の重要性については疑う余地もない。また、それら基本手技を修得するための確実な方法は反復練習であると考える。

そのため、本授業では肢位毎（坐位・側臥位・腹臥位・仰臥位）に各部位（肩背部・頚部・腰殿部・下肢部）への基本・基礎的なあん摩施術を反復して実践し、あん摩施術の一連の流れの把握及び基本手技の修得を目指すものとする。

教　科　書

教科書は指定しない

手拭い（初期購入品以外の物も可とする）と枕に引くハンカチは毎回必ず持参すること

具体的な到達目標

目標１	あん摩施術の一連の流れを実施することができる。
目標２	施術面に対してしっかりと密着した軽擦法を行うことができる。
目標３	手首を柔軟に用いた揉捏を行うことができる。
目標４	素早く軽やかな叩打法を行うことができる。
目標５	患者役の呼吸・感受性に合わせた圧迫法を行うことができる。
目標６	各関節のおおよその可動範囲を理解し、安全な範囲の中で運動法を行うことができる。
目標７	適切な姿勢・手の形で各種曲手を行うことができる。

評価と試験

	前　期		後　期	
試験成績	１００％		１００％	
平常点		算出方法		算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	通学再開をもって設定		通学再開をもって設定	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有	☑	無	□
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あマ指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で３年以上の実務経験あり。			
実務経験をいかした教育内容	軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手といったあん摩施術における基本的な手技を中心に実技を行う。			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス説明及びあん摩施術の概要、手指各部の名称及び上手・下手等の用語の学習	
2	あん摩の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3	坐位における肩背部へのあん摩施術の練習	
4	前回内容（坐位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
5	坐位における頚部へのあん摩施術の練習	
6	前回内容（坐位における頚部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
7	坐位における上肢部へのあん摩施術の練習	
8	前回内容（坐位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
9	側臥位における肩背部へのあん摩施術の練習	
10	前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
11	側臥位における頚部へのあん摩施術の練習	
12	前回内容（側臥位における頚部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
13	側臥位における上肢部へのあん摩施術の練習	
14	前回内容（側臥位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
15	前期実技試験、前期学習内容の復習	
16	前期実技試験、前期学習内容の復習	
17	側臥位における腰殿部へのあん摩施術の練習	
18	前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
19	側臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
20	前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
21	腹臥位における頚肩部へのあん摩施術の練習	
22	腹臥位における背腰部へのあん摩施術の練習	
23	仰臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
24	坐位における頭部へのあん摩施術の練習	
25	坐位における肩背部・頚部・上肢部へのあん摩施術の練習	
26	側臥位における肩背部・頚部・上肢部へのあん摩施術の練習	
27	側臥位における腰殿部・下肢部へのあん摩施術の練習	
28	側臥位におけるあん摩施術の通し練習	
29	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
30	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
31	腹臥位におけるあん摩の通し練習	
32	全身のあん摩施術の総復習	

その他の事項

通年であん摩の基礎実技を学んでいきますが、基本的に、授業内の時間だけでは施術できるようにはなりません。

授業外の放課後練習や自宅練習を行い、技術の研鑽に努めて下さい。

専 門 分 野　（　マッサージ実技Ⅰ　）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2020 年度シラバス

授業概要

学　　科	本　　科	学　　年	１　年	学　　期	通　　年
単 位 数	２	必要時間数	６０	実施時間数	６４
担当教員	松葉　実				
授業形態	実　　習	教　　室	第３実技室		
授業目的	マッサージ実技。マッサージの基本の施術を見せて、学生自身で練習を反復し、手技の習得をはかる。				
教　科　書	東洋療法学校協会編、あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉、医道の日本社、１９９１年				

具体的な到達目標

目標１	マッサージ師としての基本的な技術と知識の習得。
目標２	施術を施して楽になることが理解できる。
目標３	解剖学的な筋肉や骨の理解。
目標４	東洋医学の一環としての手技であることの自覚。
目標５	
目標６	
目標７	
目標８	
目標９	

評価と試験

	前　期		後　期	
試験成績	６０		６０	
平常点	１０	算出方法	１０	算出方法
出席点	３０	算出方法	３０	算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	7 月中旬 ※変更の可能性あり		12 月上旬の予定	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有	☑	無	□
教員の実務経験	３５年			
実務経験をいかした教育内容	一年生ではマッサージの基本手技を身体各部全身に教科書を見ずに施術できるよう習得する。			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		三療の中のマッサージの位置付け	
2		基本手技	
3		運動法と矯正法	
4		手部	
5		前腕	
6		上腕	
7		足部	
8		下腿部	
9		大腿部	
10		復習	
11		予備日	
12		試験日	
13		試験日	
14		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋	
15		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋	
16		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋	
17		頚部	
18		頭部	
19		胸部	
20		腹部１	
21		腹部２	
22		顔面部	
23		関節１	
24		関節２	
25		乳房	
26		後期の復習	
27		予備日	
28		試験日	
29		試験日	
30		予備日	
31		全身の施術	
32		全身の施術	

その他の事項
その日習った手技を必ず復習し、わからない箇所をまとめて次の授業にて質問するように。

専 門 分 野　（　指圧実技Ⅰ　）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2020 年度シラバス

授業概要

学　　科	本　　科	学　　年	１　年	学　　期	通　　年
単 位 数	２	必要時間数	６０	実施時間数	６０
担当教員	上田　恵介				
授業形態	実　　習	教　　室	第３実技室		
授業目的	本校オリジナルの指圧テキストを教材として用いる。解説はデモンストレーションを主とし、必要に応じて教材以外の資料を配付、板書等交えながら実施する。特に安全面に注意しながら、効率的な身体の使い方（体傾荷重）に主眼を置いた指導を行う。指圧は治療に適した療法である反面、必ず危険性を伴う。したがって安全に操作が行えるようになることを第一とする。その上でより治療的に行えるようになるための基礎（基本）を反復練習する習慣を身に付ける。				
教　科　書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標

目標１	指圧に関する基礎知識を説明できる。
目標２	安全に操作する方法を説明できる。
目標３	基本操作を手順通り行える。
目標４	基本操作を安全に行える。

評価と試験

	前　期		後　期	
試験成績	１００％		１００％	
平常点		算出方法		算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有	☑	無	□
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院にて 2 年、他治療院 2 年間、往診専門で開業 3 年、本校附属治療所で 5 年間の臨床経験あり。			
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。			

授業の内容

回数	内容		備考
1	導入	指圧に関する基礎知識１ あマ指の相違点、指圧法の成り立ち、押圧操作の三原則、方向・角度・深度など	
2	導入	指圧に関する基礎知識２　押圧の分析（基本図形）、手掌の名称、背部の名称など	
3	伏臥位（前半）	姿勢（術者・受者の姿勢、立ち位置）、脊柱検査、肩の安全確認	
4	〃	背部全体の掌圧（遠位側・近位側・脊柱）、体傾荷重について	

5	〃	一側線の両母指圧
6	〃	二側線の両母指圧
7	〃	三側線の両母指圧
8	〃	肩甲骨周囲部の両母指間圧迫（内側縁）
9	〃	腰側線の両母指圧
10	〃	仙骨両側の両母指圧（挟み込み）
11	〃	下肢の掌圧及び母指圧操作固定に関して、固定の意義 （正中ライン：大腿の掌圧、膝の操作、委中・アキレスの１点圧、足裏の操作）
12	〃	（内側ライン：内股の掌圧、アキレスの手根圧）
13	〃	（外側ライン：大腿～下腿外側の掌圧）
14	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
15	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
16	試験後の総評	前期伏臥位総復習
17		伏臥位（後半）　肩上部、肩背部母指圧（T6,7～肩甲骨上角、肩上部、棘上部、1側線上部）
18	〃	上肢操作（腋窩押圧、上腕・前腕の掌圧）
19	〃	肩甲骨内側縁の母指圧
20	〃	一・二・三側線の両母指圧（治療的）、腰側線の両母指圧
21	〃	仙骨孔の４点母指圧（後仙骨孔の指標）
22	〃	下肢操作（大腿～下腿の掌圧、腓骨の巻き込み）
23	〃	下肢操作(足関節の回転運動、膝関節回転法)
24	〃	下肢操作(前脛骨筋の手根圧、下肢操作復習)
25	〃	大腿前面部伸展法、腰部伸展法
26	〃	後半総復習
27	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
28	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
29	試験後の総評	後期伏臥位総復習
30	指圧総合	指圧伏臥位通し

その他の事項

＜試験成績＞　１００％

〇実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

〇身だしなみ：(実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

＜教員メッセージ＞

・指圧実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。　積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、１年間練習に励んでください。

＜その他＞

※実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。